

2027年国際園芸博覧会
環境影響評価準備書

説明会の開催状況、質疑、意見の概要及び事業者の説明

令和5年11月

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

1 準備書に関する説明会の開催及び準備書の概要に関する周知結果

2027年国際園芸博覧会 環境影響評価準備書（以下、「準備書」とします。）に関する説明会の開催、及び準備書の概要に関する周知結果は以下のとおりです。

1.1 各住戸等へのポスティング

令和5年10月12日（木）から令和5年10月16日（月）までに「2027年国際園芸博覧会 環境影響評価準備書の説明会開催のお知らせ」を各住戸へのポスティングにより、表1-1及び図1-1に示す対象地域に配布しました。対象地域以外の周知範囲についても説明会の開催までに順次配布しました。

また、令和5年10月25日（水）に「2027年国際園芸博覧会 環境影響評価準備書の概要等について」を、各住戸へのポスティングにより、表1-2及び図1-1に示す対象地域に配布しました。対象地域以外の周知範囲についても、順次配布しました。

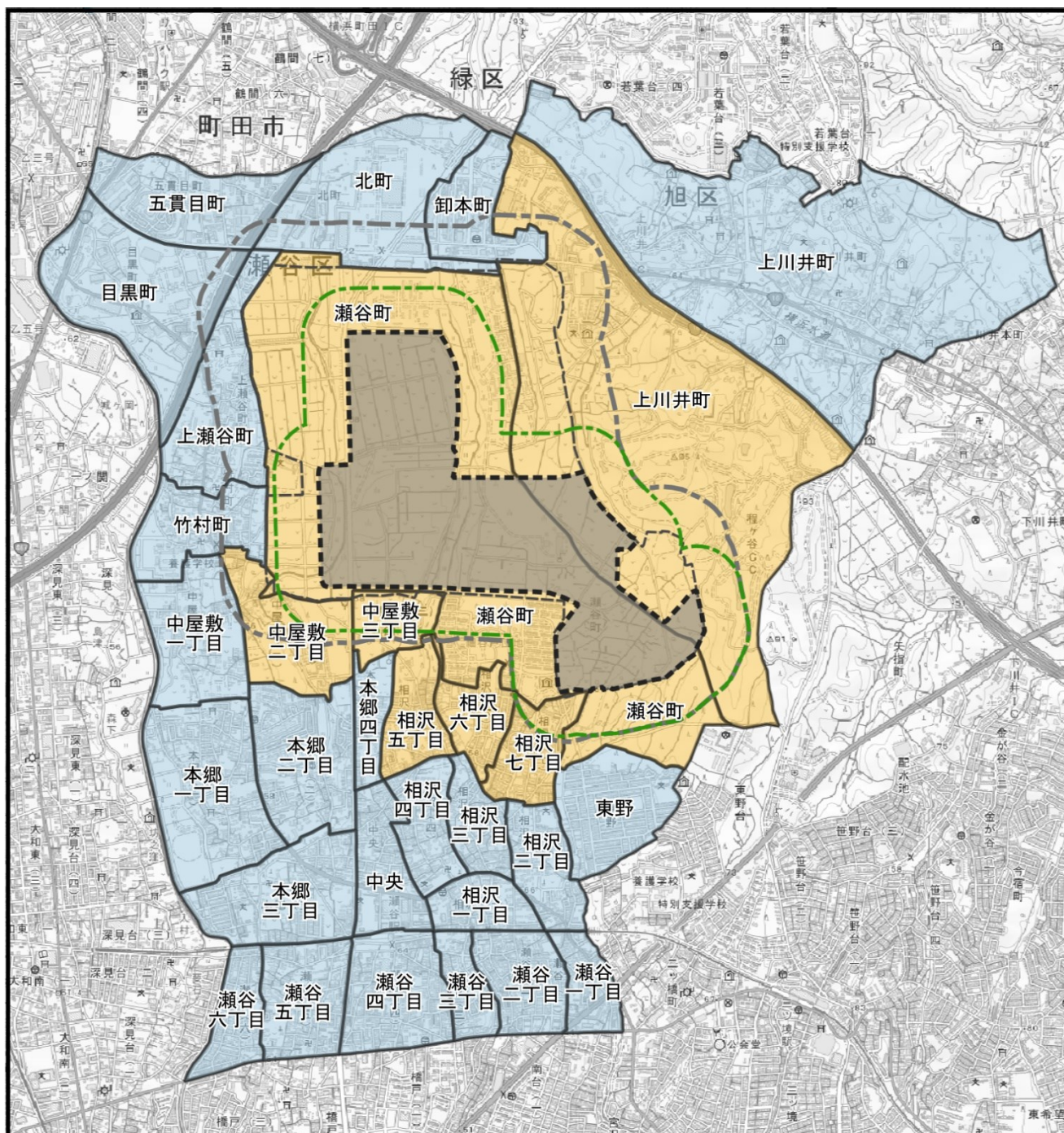
なお、対象地域以外の周知範囲は、令和4年6月に実施された「2027年国際園芸博覧会 環境影響評価方法書」の説明会開催のお知らせの周知範囲や関連事業の対象地域等を踏まえ、設定しました。

表 1-1 対象地域及び対象地域以外の周知範囲と準備書に関する説明会等のお知らせの配布部数

区名	町丁目名	周知範囲	周知方法	配布部数
旭区	上川井町	対象地域及び対象地域以外の周知範囲	各住戸等への ポスティング	1,618 部
瀬谷区	瀬谷町	対象地域		1,268 部
	中屋敷二丁目			182 部
	中屋敷三丁目			12 部
	相沢五丁目			551 部
	相沢六丁目			511 部
	相沢七丁目			638 部
	瀬谷一丁目	対象地域以外の周知範囲		505 部
	瀬谷二丁目			1,072 部
	瀬谷三丁目			676 部
	瀬谷四丁目			2,150 部
	瀬谷五丁目			1,219 部
	瀬谷六丁目			549 部
	北町			195 部
	五貫目町			1,152 部
	目黒町			138 部
	上瀬谷町			1,181 部
	竹村町			451 部
	中屋敷一丁目			534 部
	本郷一丁目			1,177 部
	本郷二丁目			1,472 部
	本郷三丁目			1,162 部
	本郷四丁目			340 部
	卸本町			100 部
	相沢一丁目			677 部
	相沢二丁目			594 部
	相沢三丁目			542 部
	相沢四丁目			603 部
	中央			985 部
	東野			787 部
合計				23,041 部

表 1-2 準備書の概要等の配布部数

区名	町丁名	周知範囲	周知方法	配布部数
旭区	上川井町	対象地域及び対象地域以外の周知範囲	各住戸等への ポスティング	1,618 部
瀬谷区	瀬谷町	対象地域		1,268 部
	中屋敷二丁目			182 部
	中屋敷三丁目			11 部
	相沢五丁目			551 部
	相沢六丁目			511 部
	相沢七丁目			638 部
	瀬谷一丁目	対象地域以外の 周知範囲		504 部
	瀬谷二丁目			1,071 部
	瀬谷三丁目			676 部
	瀬谷四丁目			2,150 部
	瀬谷五丁目			1,215 部
	瀬谷六丁目			549 部
	北町			195 部
	五貫目町			1,152 部
	目黒町			138 部
	上瀬谷町			1,181 部
	竹村町			450 部
	中屋敷一丁目			532 部
	本郷一丁目			1,176 部
	本郷二丁目			1,472 部
	本郷三丁目			1,162 部
	本郷四丁目			340 部
	卸本町			100 部
	相沢一丁目			677 部
	相沢二丁目			594 部
	相沢三丁目			542 部
	相沢四丁目			603 部
	中央			985 部
	東野			787 部
合計				23,030 部



凡 例

- 本博覧会 対象事業実施区域
- 本博覧会 敷地境界から200m圏
- 土地区画整理事業 実施区域
- 土地区画整理事業 敷地境界から200m圏

本博覧会の準備書周知範囲

- 対象地域（準備書の内容について周知を図る必要がある地域）
- 対象地域以外の周知範囲

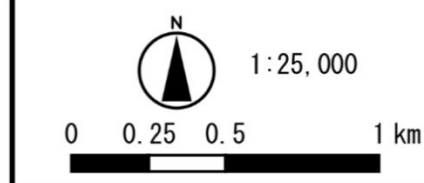


図 1-1 対象地域及び対象地域以外の周知範囲

1.2 協会ホームページへの掲載

令和5年10月17日（火）から、2027年国際園芸博覧会協会（以下、「当協会」という）のホームページ（<https://expo2027yokohama.or.jp/>）に、準備書説明会の開催のお知らせを掲載しています。

また、令和5年10月26日（木）に、同ホームページに、準備書の縦覧についてのお知らせを掲載するとともに、以下の資料を掲載しました。

- ・ 2027年国際園芸博覧会環境影響評価準備書の概要等について（pdf）
- ・ 環境影響評価準備書 説明資料（pdf）

1.3 動画配信

令和5年10月26日（木）から、インターネット上に準備書の概要に関する説明動画を配信しました。配信内容は説明会の内容と同様のものにしました。

2 説明会の開催状況、質疑、意見の概要及び事業者の説明

2.1 説明会の開催状況

説明会は、表2-1に示す日時で計4回開催し、準備書の概要を参加者に説明しました。

表 2-1 準備書に関する説明会の開催結果

回	開催日時	会場	参加人数
第1回	令和5年10月27日（金） 18:30～20:30	瀬谷公会堂 （瀬谷区二ツ橋町190）	80名
第2回	令和5年10月28日（土） 18:00～20:00	旭区役所新館2階大会議室 （旭区鶴ヶ峰1丁目4番地12）	15名
第3回	令和5年10月29日（日） 18:30～20:30	瀬谷公会堂 （瀬谷区二ツ橋町190）	39名
第4回	令和4年10月30日（月） 18:30～20:30	旭公会堂 （旭区鶴ヶ峰1丁目4番地12）	26名
合計			160名

2.2 説明会における質疑、意見の概要及び事業者の説明

各開催日の質疑、意見の概要及び事業者の説明は、表 2-2～表 2-5 に示すとおりです。

整理に当たっては、発言順とし、項目欄を設けました。

表 2-2(1) 説明会（第1回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
A	水循環	自然との調和とっているが、なぜ相沢川を暗渠にするのか。暗渠にするのであれば、川幅や深さなど整備内容を教えてほしい。	本博覧会は、横浜市の土地区画整理事業の施工中の土地を借りて半年間、開催するものです。河川は暗渠になるが、将来公園となる区間は、横浜市が新たに水辺空間等を創出する計画です。本博覧会では、それを保全・活用するため、自然との調和した計画であると考えます。 また、暗渠の整備内容については、横浜市中で検討を進めていると聞いています。
		雨水浸透枳の設置などにより地下浸透させるとあるが、駐車場や園路は舗装するので、相沢川に流れ込む雨水量は多くなると考える。 また、相沢川は昔からよく氾濫し、今年も内水氾濫で道路冠水が起きており、不安を感じている。	駐車場や園路など本博覧会の施設整備では、できる限り雨水を地下に浸透させるなど、河川の流量の増加を軽減できるよう努めます。 また、横浜市の土地区画整理事業や公園整備事業では、雨水流出抑制のため、調整池を整備することになっています。
B	施工計画	横浜市の土地区画整理事業で公表しているまちづくりニュースでは、工事用車両の走行ルートは東京湾と相模湾の分水嶺を外して、もっと西側となっている。資料が古いのではないか。そうであれば、この環境影響評価が信頼できるのか疑問である。	準備書で示した工事用車両の走行ルートについては、北側からアクセスするという考え方を示したものです。具体的なルートについては、今後、横浜市と調整していきます。
C	輸送計画	環状4号線は、現状では朝夕に交通渋滞が発生している。シャトルバスについて、何台保有し、どのような運行計画なのか。特に、瀬谷駅のシャトルバスの運行について教えてほしい。 また、瀬谷駅を発着するシャトルバスは、現状のバスターミナルを使うのか。	シャトルバスは、瀬谷駅、三ツ境駅、南町田グランベリーパーク駅、十日市場駅の4駅から発着し、一日の延べ台数は約2,600台となります。瀬谷駅は一日の延べ台数で、約700台となります。 シャトルバスの保有台数については、今後の検討となります。 瀬谷駅のシャトルバスについては、既存のバスターミナルを基本に考えていますが、引き続き、関係事業者等と調整を進めていきます。

表 2-2(2) 説明会（第 1 回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
C	輸送計画	環状 4 号線については、中瀬谷消防署より北側は 4 車線になるが、南側は 2 車線のままだと聞いている。 車線が 4 車線から 2 車線に絞られるのに、なぜ環状 4 号線への影響が限定的だと評価しているのか。	自家用車による来場は、北側からが 9 割、南側からは 1 割であると想定しています。 現在、横浜市が瀬谷地内線及び三ツ境下草柳線の整備を進めており、南側から来場する自家用車は、環状 4 号線と新しくできる路線に分散され则认为します。 自家用車の方面別の分担率や道路の整備状況などを勘案し、環状 4 号線への影響は限定的であると評価しています。
D	輸送計画	瀬谷駅から会場までのルートは、瀬谷から会場までのシャトルバスだけなのか。 新たな交通システムは導入するのか。	本博覧会では、瀬谷駅から会場までの主な交通手段として、シャトルバスの運行を想定しています。 新たな交通については、横浜市が引き続き、検討を進めていると聞いていますが、本博覧会での活用は想定していません。
E	対象事業の計画	来場者数の目標値である 1,000 万人は過大であり、想定を下回った場合は赤字となって新たに公費が支出されることが懸念される。来場者数の目標値は何を根拠として算定したのか教えてほしい。	多くの人口を抱える首都圏で初めて開催する国際園芸博覧会であり、目標である有料来場者数 1,000 万人以上は達成できるものと考えます。
	対象事業の計画	相沢川を暗渠にし、来場者数 1,500 万人という過大な目標を立てている。 和泉川や相沢川では環境保全団体が子供たちに水田の体験学習等を行っており、土地と密接に繋がった市民運動を展開していくことが大事であるとする。 横浜に残された最後の里山の自然環境を最大限に生かして、地域住民のための跡地利用をもう少ししっかり検討してほしい。	横浜市は相沢川の水を活用して、保全対象種の生息・生育環境となる水辺空間等を創出することになっています。本博覧会では横浜市と協力しながら、この水辺空間等を保全・活用するなど、自然環境を最大限活用するとともに、地域住民の理解と協力が得られるよう努めていきます。
F	対象事業の計画	壮大な上瀬谷の自然環境のうち、現在の草地環境の一部しか保全しないのに、どうやって自然を生かした博覧会といえるのか。 今からでも河川の暗渠化をやめて、水田を活かした博覧会にできないのか。	横浜市は相沢川の水を活用して、保全対象種の生息・生育環境となる水辺空間等を創出することになっており、現況の緑地等を保全するエリアもあります。 本博覧会でも現在の草地環境を保全した広場を整備するとともに、新たな植栽も行います。 本博覧会では横浜市と協力しながら、この水辺空間等を保全・活用するなど、「GREEN×EXP02027」に相応しい博覧会にしたいと考えています。

表 2-2(3) 説明会（第1回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
G	その他	代表者の氏名について、方法書では会長名だったが、事務総長名に変更しているのはなぜなのか。 本日の説明会の参加者数が少ないと感じている。開催案内は関係する区の全域に配布すべきだと考える。 瀬谷柏尾線など現状では歩道がない道路があり、交通事故の発生が懸念される。国際園芸博覧会は、2027年に開催しなくても誰も困らない。まずは道路整備をしたうえで、次に環境整備という手順を踏んでほしい。	事務総長は会長と同様に代表権があり、事務手続きのときは事務総長名で申請しています。 説明会の開催案内については、約2万部を印刷して、対象事業実施区域の周辺に各戸配布しています。 また、できるだけ多くの方に知っていただくため、博覧会協会ホームページで本日のスライド等を読み上げた動画や、本日お配りした資料等をご覧になっていただけるようにしています。 道路整備については、ご意見として承るとともに、横浜市にも伝えます。
	輸送計画	準備書には、1,000万人以上が来場しても影響しない、渋滞しないとあるが、仕事で環状4号線や瀬谷柏尾線を使っているが、もし渋滞が発生したら、営業補償してもらえるのか。	開催中の交通については、将来の道路の整備状況を踏まえ、予測・評価を行っています。会場周辺の主要な交差点における交差点需要率等から、交通流に影響を与えるような渋滞は生じないことを確認しています。交通渋滞に伴って、営業補償を行うという考えはありません。
(再質問) B	対象事業の計画	大門川による高低差が大きい環状4号線の西側にも駐車場があるが、国際園芸博覧会のために大門川を全部埋め立てるといふことか。	横浜市のまちづくりにおいて、大門川を埋め立てて平坦にするという計画になっており、本博覧会では、駐車場として活用します。本博覧会のための造成ではありません。
H	その他	準備書に記載されている国際園芸博覧会の目的が理解できない。 また、説明会は2時間では短すぎる。	ご要望については、ご意見として承りました。
I	生物多様性	準備書では、保全対象種の生息・生育環境の周辺で工事を実施するが、それらの環境は改変しないと記載してある。ホトケドジョウのいる和泉川源流域は改変しない計画なのか。	横浜市によって基盤整備等が実施され、保全対象種の生息・生育環境等が創出されます。本博覧会では、保全対象種の生息・生育環境等を保全・活用します。
J	その他	細谷戸団地前の道路は、現在も多くの車が往来しており、以前には交通事故もあった。 近隣住民のために道路整備を優先してほしい。	横浜市の土地区画整理事業で拡幅整備する道路であり、両側に歩道が整備されることになっています。
	騒音	細谷戸団地の北側には営業施設が近接しており、騒音の発生が懸念される。静かに暮らしたいので、営業施設は移動してほしい。	細谷戸団地の北側道路は横浜市の土地区画整理事業によって拡幅されます。また、営業施設との間には植樹帯や管理用道路を整備することになっており、細谷戸団地からは十分に離隔がとれるようにしたいと考えています。

表 2-2(4) 説明会（第 1 回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
J	計 輸 画 送	細谷戸団地の前の道路を通らないよう、車両の出入口は八王子街道からにすれば良いと考える。	ご要望については、ご意見として承りました。
K	騒 音	騒音レベルが70デシベルと記載されているが、環境への影響としてはどういうことになるのか。評価基準が妥当であるか知りたい。	法令等に基づく環境基準に適合しているということです。
	そ の 他	環境影響評価審査会とはどのような組織なのか。審査委員は横浜市の内部から登用しているのか。 環境の保全のための措置については、マニュアル書等が作成されるのか。環境が維持されていることを確認するためには、定期的に評価していくべきだと考える。	横浜市環境影響評価審査会は、市の諮問機関であり、審査委員は外部有識者等から構成されています。 環境の保全のための措置が、確実に履行できるように、ガイドライン等を策定していきます。
L	そ の 他	国際園芸博覧会を開催することによる経済的な効果はどの程度だと考えているのか。 また、現在の予算以上の支出にならないようにしてほしい。	会場整備などによる経済波及効果は十分に見込め、日本の経済に好影響を与えると考えています。 予算については、効率的で効果的な執行に努めていきます。

表 2-3(1) 説明会（第2回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
A	施工計画	施工計画としては、横浜市の土地区画整理事業で基盤整備し、公園整備事業で園路等を整備したうえで、博覧会が施設や植栽等の整備を行うということで良いか。 各事業が個別に環境影響評価を行っているのであれば、関係はどうなっているのか。3事業の工事が重なっている時期では、工事による影響は3倍になるのではないか。	施工計画はその通りです。 各事業が個別に環境影響評価の手続きを行っており、横浜市の土地区画整理事業は法令に基づく手続きであり、公園整備事業及び本博覧会は横浜市の条例に基づく手続きです。各事業の環境影響評価においては、他事業による影響も考慮していますが、実施時期が異なるので、進捗状況に応じた予測評価となっています。
B	輸送計画	程ヶ谷カントリー倶楽部の外周道路について、抜け道として利用されることを懸念している。 また、現状ではゴルフ場の外周道路から博覧会の会場まで、人の行き来があるが、開催時にはどの様になっているのか教えてほしい。	工事車両や関係車両等の走行ルートとして、程ヶ谷カントリー倶楽部の外周道路を使う計画はありません。周辺住宅地も含め、抜け道にならないよう、立て看板を設置するなど、推奨ルートを周知するとともに、工事関係者等の指導も徹底します。 着工に向けては、今後、程ヶ谷カントリー倶楽部や周辺住民等と話し合っていきたいと考えています。 本博覧会は有料での開催であり、フェンス等を設置するので会場区域の通り抜けはできません。現状では散策などの通行がありますが、本博覧会の工事中、撤去中は、工事の安全を確保しながら対応を検討することになります。
C	その他	程ヶ谷カントリー倶楽部の外周道路から開催地まで砂利道でつながっているが、今後どの様になるのか教えてほしい。	ご指摘の場所は、本博覧会の区域外となります。
D	その他	安全な道路を作ってほしい。何十年も道路舗装が改修されていないので、大きなトラックが通ると大きい音や振動がする。 また、細谷戸周辺に駐車場がないので、博覧会とは別に一般の人が利用できる駐車場を整備してほしい。 瀬谷みはらし公園にゴミを捨てる人がおり、毎日ゴミ拾いをしている。博覧会の来場者等がゴミを捨てないようにしてほしい。	道路整備、駐車場の設置及び瀬谷みはらし公園へのゴミの廃棄については、ご意見があったことを横浜市に伝えます。 また、本博覧会の来場者が周辺にゴミを廃棄しないよう周知徹底していきます。

表 2-3(2) 説明会（第2回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
E	その他	博覧会の収入源はどうなっているのか。水循環における有効流出量の増加分について、税金を使って整備する土地区画整理事業の調整池で対応するのであれば、なぜ税金を二重にを使って博覧会で雨水貯留浸透施設等を作るのか。	建設費については、国、民間、横浜市や神奈川県などの地方が、それぞれ1/3を負担します。運営費については、主としてチケット販売が収入となります。雨水の河川への流出対策としては、横浜市が整備する調整池で対応しますが、本博覧会では、雨水貯留浸透施設等を整備し、環境への負荷をできるだけ低減させることで、「GREEN×EXP02027」に相応しい取り組みとして国内外に発信していきます。
	地域社会	目黒交番前の交差点では、立体交差の工事を行うようだが、交差点需要率を算定する際に、工事期間中に車線が減少することは予測評価に反映しているのか。また、2024年には建設業の週休2日制が義務化されるようだが、予測評価に反映しているのか。平日の交通量が増加することを懸念している。	現時点では、目黒交番前の工事などの詳細については、明らかになっていないため、本博覧会の環境影響評価においては、現況の交差点の条件で工事中の予測評価を行っています。また、建設業に係る制度や運用についても詳細が明らかになっていないため、交通量への反映は行っていません。今後、工事を実施する中で対応を検討していくことになります。
F	輸送計画	現状でも中原街道などでは渋滞が発生しており、細い道にも迂回する車が入ってくる。工事車両や来場車両を処理できるか心配だ。博覧会とズーラシアの両方に行く人もあると考えており、シャトルバスの走行もあつて、さらなる渋滞が発生することを懸念している。また、東名高速道路との接続が整備されるという話も聞いているが、周辺道路の整備状況についても情報提供してほしい。	本博覧会の来場者は、多客日には自家用車が約14,300台であり、そのうち約10,000台が会場隣接駐車場を利用すると想定しています。来場車両の方面別割合は、北側からが9割、南側からが1割であり、保土ヶ谷バイパスや東名高速道路の利用が多いと想定しています。スライドでお示しした通り、横浜市は本博覧会の開催に向けて、道路拡幅や交差点改良を進めており、それらを踏まえて予測評価を行っています。本博覧会の開催に向けて、これらの予測結果を踏まえ、駐車場の予約制度や経路情報の発信などを行って、抜け道対策も含めて、来場者の適切な交通誘導を行っていきます。
G	生物多様性	生物の生息状況について示されているが、博覧会の工事で環境が改変されて、動植物がいなくなったらどうするのか。	本博覧会の会場区域内には、横浜市によって基盤整備等が実施され、保全対象種の生息・生育環境等が創出されます。本博覧会では、これらの周辺で施設整備を行います。が、改変は行いません。工事による影響が出ないよう、十分に配慮するとともに、横浜市と連携しながら、これらを保全・活用していきます。また、既存樹林地を保全・活用するとともに、現状の草地環境の一部を保全した広場も整備し、横浜市に引き継いでいきます。

表 2-3(3) 説明会（第2回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
G	温室効果ガス	土地を改変したあとの地球温暖化に対する影響についてはどう対処するのか。	できるだけ温室効果ガスを削減していきたいと考えています。電気については再生可能エネルギー100%を目指しており、エネルギーの地産地消や、太陽光発電なども考えています。建築については仮設建築物のレンタル・リースで建設機械の稼働を減らすなどの努力をしています。
H	輸送計画・地域社会	準備書資料編に主要渋滞箇所が掲載されているが、中原街道の渋滞は考慮しているのか。5月の連休にはズーラシアに来る人たちで渋滞している。 交通量は調べたということだが、通過にかかる時間は調べたのか。土日や休日は横浜青葉インターチェンジも混雑しており、30分以内で会場に来ることはできないと思う。通過時間について勘案してほしい。	開催時の道路整備状況を踏まえて推計を行っています。来場者は北側から9割、南側から1割と想定しています。三ツ境下草柳線や瀬谷地内線の整備が進み、上川井インターチェンジの交差点も改良されるので、中原街道の負荷は低減されると想定しています。博覧会の開催時には、推奨ルートを示すなど運営面でも配慮していきます。交通量については、東名高速の渋滞状況も含め、時間帯ごとの分析を進めているところです。
	その他	建設資材の高騰や人手不足等が原因で、大阪関西万博は整備が遅れていると聞いており、横浜でも同様の問題が懸念される。2027年の開催を延期するという選択肢はないのか。渋滞で生活に影響があるものであれば、規模を縮小してほしい。	本博覧会は大阪関西万博とは規模や内容が異なり、建物はレンタル・リースにするなどの工夫も考えています。 適切な工期を設定し、2027年の開催が遅れないよう取り組んでいきたいと考えています。
A (再質問)	その他	準備書資料編に掲載されている図は、国土交通省の神奈川県における主要渋滞箇所に関する資料から引用したものということだが、環境アセスメントは既存資料からのデータを使用しても良いのか。事例はあるのか。	国土交通省の資料を引用していることで間違いありません。環境影響評価で既存資料からの引用を行うことは認められているし、過去事例でも既存資料の引用は行われています。引用したものは、出典を記載しています。

表 2-4(1) 説明会（第3回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
A	生物多様性	生物多様性について、環境保全目標として数値目標は設定しないのか。 博覧会による騒音は、動物や昆虫などの生息環境として妥当な目標といえるのか。 生物多様性に関する事後調査は行わないのか。	本博覧会による生物多様性への影響を考慮し、環境保全目標を設定しています。数値目標は設定していません。 騒音については、法令等に基づく環境基準を下回ると予測しています。 本博覧会では、横浜市により創出された保全対象種の生息・生育環境等を保全・活用するとともに、環境の保全のための措置を着実に実施することから、生物多様性については事後調査を実施しません。
B	生物多様性	本日の説明者は、7月と9月に開催された横浜市環境影響評価審査会での意見を把握しているのか。 審査会では生物多様性については、全改変され、量も質も変わるので、出来ないことは示すべきだという意見があった。 ホトケドジョウの生息環境が残るとするのは飾り言葉に過ぎないと思う。この準備書に記載されている評価では駄目だと思う。	本博覧会の準備書については、今後、横浜市環境影響評価審査会に諮ります。7月と9月に開催された審査会は別事業についての審査であると認識しています。 本博覧会では、横浜市の土地区画整理事業や公園整備事業によって基盤整備された土地をお借りして開催するものです。 準備書の評価については、本博覧会が周辺環境にどのような影響を与え、それに対して、どのような措置をとるかという内容となっています。
C	輸送計画	新交通システムや新たなインターチェンジは、2027年の開催に間に合うのか。検討状況を教えてほしい。	本博覧会では、新交通システムや新たなインターチェンジを活用することを前提に予測・評価を行っていません。新交通システムや新たなインターチェンジは、横浜市が検討を進めていると聞いています。
D	水循環	相沢川や和泉川で工事をするようだが、最近の豪雨では氾濫しそうになっており、大丈夫であるか懸念している。	相沢川、和泉川、大門川では、法令等に基づき、横浜市が調整池を整備して、雨水流出抑制を実施することとなっています。 本博覧会でも透水性舗装や浸透枡等の整備により、雨水を地下に浸透させることで、河川への負荷をできるだけ軽減できるよう配慮しています。
	輸送計画	博覧会の来場車両は北側からで、調査地点もすべて瀬谷駅の北側となっている。南側は大丈夫だと聞いたが、環状4号線は現状でも渋滞しており、瀬谷柏尾線は生活道路なので、南側からの交通量の増加分を吸収できないと思う。日常生活や物流への影響を懸念している。どこが責任をとってくれるのか。	工事用車両の入退場については、主に北側の八王子街道からのアクセスを想定しています。 開催中の来場車両については、東名高速道路や保土ヶ谷バイパスなど北側からのアクセスが多く、割合としては北側からが9割、南側からが1割と想定します。 南側からのアクセスについては、横浜市により瀬谷地内線が整備されるので、交通量が分散して、環状4号線への負荷は低減されると想定しています。

表 2-4(2) 説明会（第3回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
E	その他	博覧会開催後は、自然公園になるのか、どのようなものになるのか教えてほしい。	開催後は、対象事業実施区域のうち会場区域の一部は、横浜市の公園として整備されます。その他は、横浜市の土地区画整理事業によって、まちづくりが進められると認識しています。
F	生物多様性	生態系への影響を軽減できると予測しているが、軽減の程度がわずかなのか、大幅なのかなどが書かれていない。駐車場については、透水性のある舗装としても、草木はなくなってしまうので、影響が軽減できるとはいえないと考える。	定量的な評価は難しいですが、横浜市が創出した保全対象種の生息・生育環境等を改変せず、保全・活用することや、現況の草地環境を生かした広場を整備し、横浜市に引き継ぐことなどから、生態系への影響を軽減できると考えます。
G	その他	高压の電線等が設置されると、電磁波による生態系や人体への影響が懸念される。	本博覧会は、庭園を主体としたイベントであり、通常の範囲での電力需給を考えています。生態系や人体に影響を与えるような大量の電気を供給する施設等の設置は想定していません。
	景観	以前と比べると景観が悪くなっているように感じている。もう少し自然が多く残るような景観にしてほしい。	ご要望については、ご意見として承りました。
H	水循環	和泉川は以前よりも水位変動が激しい。先日の大雨で過去最高水位まで上がってしまった。博覧会の整備により透水性が落ち、一気に雨水が川に流れ込むことを懸念している。雨水を地下に浸透させることが重要であるとする。市民の森を西の方に広げてほしいと考えており、市民とともに、時間をかけて森を再生していく方向で検討してほしい。	本博覧会の会場区域については、横浜市と連携しながら緑化を進め、公園に引き継いでいきたいと考えています。 駐車場については、博覧会の開催後は速やかに撤去して返還することになっていきます。その後は、横浜市の土地区画整理事業によって、まちづくりが進められると認識しています。
I	その他	住民等の生活に直接関係する事業なのに、なぜ横浜市の職員は来ていないのか。市税を使っていることを考えてもらいたい。	説明会については、横浜市の環境影響評価条例に基づいて開催しており、本博覧会の事業主体である本協会が実施することになっています。説明会でいただいたご意見等については、環境影響評価審査会でも報告することとなっています。
		本日の参加者が少ないと考える。博覧会には興味がないということであり、市全体でもっとアピールする必要があると考える。	いただいたご意見も踏まえ、多くの皆様が関心を持っていただけるように努めていきます。
	地域社会	上瀬谷小学校の登下校の時間帯に工事用の大型車両が通過するのは心配だ。歩道はいつ頃に整備されるのか。	本博覧会の開催までに横浜市が歩道を整備すると考えています。 また、本博覧会の工事の事業者が決まった段階で、小学校も含めて周辺にお住まいの皆様のご意見を聞きながら、交通安全対策等を検討していきたいと考えています。

表 2-4(3) 説明会（第3回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
J	その他	2031年に同じ場所にテーマパークが開かれるという話を聞いたが、2027年に開催される博覧会との関連性はあるのか。	テーマパークについては、横浜市のまちづくりの一環で誘致を進めていると認識しています。本博覧会とは直接、結びつくものではありませんが、今後、テーマパークの事業者と連携できることがあれば検討していきたいと考えています。
K	地域社会	博覧会会場の西側には、県立の特別支援学校があって、北側の道路は通学バスの経路として使っていると思うが、影響は考慮しているのか。	今後、事業を進める中で、特別支援学校に確認して、必要があれば対応していきたいと考えます。
L	会場運営計画	前横浜市長が、会場でコンサートをやると人が来ると話していたが、コンサートの開催は考えているのか。	行催事等の具体的な内容はこれからの検討となります。
	その他	資料の最後に意見書が提出できると書いてあるが、市庁舎か区役所に行かないと用紙が入手できない。意見書用紙を説明会でも配布してほしい。	意見書の用紙は区役所及び市庁舎で配布しているほか、横浜市のホームページからの電子申請も可能となっています。環境影響評価の手続きについては、資料に記載されている横浜市の環境影響評価課にご確認ください。
M	生物多様性	生物多様性については、広大な草地と樹林、谷戸と水辺があってはじめて生物多様性が保たれると考える。準備書の評価はおかしいと思う。	本博覧会では、仮設の庭園や建物等を整備しますが、影響を軽減できるよう、環境の保全のための措置を実施していきます。
	その他	博覧会の問題点を公表していくべきだと考える。そうすれば、説明会の参加者も増えると思う。	環境影響評価準備書の内容については、説明会を開催するだけでなく、協会のホームページなどで広く周知し、市民の皆様等からのご意見をいただいて、事業に反映させていきたいと考えています。

表 2-5(1) 説明会（第4回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
A	輸送計画	渋滞予測には、博覧会に従事する工事関係者や従業員等の通勤車両は考慮されているのか。 瀬谷駅から会場までは、歩きか自家用車しかないと思うが、どのような形で通勤するのか。	工事関係者や従業員等については、輸送計画の中で考慮されていますが、通勤の時間帯までは整理できていません。詳細については、今後の検討となりますが、通勤には公共交通の利用を中心に考えています。 なお、現状でも細谷戸団地までのバスがあるので、今後、事業者との調整等も考えていきます。
B	その他	公園整備事業に対して意見書を提出したが、博覧会の環境影響評価には反映されないのか。 予測・評価で活用した調査結果は、どんなデータを使ったのか。 土地区画整理事業や公園整備事業とは、同じ場所で同様の工事をするのに、情報共有できているのか。	公園整備事業に対する意見書は、本博覧会の環境影響評価への意見書としては取り扱えません。 土地区画整理事業や公園整備事業での調査結果を活用しています。また、景観など本博覧会が独自に調査を行ったものもあります。 本博覧会では、横浜市と情報共有しながら事業を進めています。
C	対象事業の計画	施設配置計画図は、開催中の博覧会のレイアウトを示しているのか。 主な環境配慮事項及び公園に引き継ぐ施設の図は、博覧会開催後のレイアウトなのか。	施設配置計画図については、開催中のレイアウトを示しており、主な環境配慮事項及び公園に引き継ぐ施設の図については、開催後に公園に引き継ぐ施設等を示しています。 園路の形状や配置など詳細については、引き続き、検討を進めているところです。
D	対象事業の計画	協会の理事・幹事から、この場所の自然を生かした博覧会にしてほしいという意見があったようだが、この意見は反映しているのか。	本博覧会では、現況の自然を生かした整備を計画しています。
	その他	横浜市の「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート」の意見募集では、何も作らず現状の自然を生かしてほしいという意見が最も多かった。横浜市は、博覧会やテーマパークは基本計画で決まっているので、意見は取り入れないと回答していた。 開催を望んでいない市民が一定数いるので、博覧会協会は、規模の縮小、場所の変更、開催の延期など、横浜市に対して、市民の不安を払拭するような意見を言えないのか。	「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート」については、将来のまちづくりについて、横浜市が意見募集したものであると認識しています。 本協会としては、対象事業実施区域で国際園芸博覧会を開催することを想定しています。

表 2-5(2) 説明会（第4回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
B (再質問)	植栽地管理計画	海外からの植物は、どのように管理をするのか。 法令等を遵守するということだが、適切、慎重ということに関して、市民の認識とずれがあると感じる。具体的にわかりやすく示してほしい。	海外からの植物については、関係法令等に適合した適切な管理を行います。 ご要望については、ご意見として承りました。
E	その他	説明会について、4日間連続で全て夕方からの実施はやめてほしい。土日は日中で、一般の方も来られる時間帯にしてほしい。	会場確保の都合により、このような日程となりました。 ご要望については、ご意見として承りました。
	輸送計画	自家用車について、北側から6割・南側から4割と想定して予測できないか。渋滞を起こさない来場者数として、500万人程度を前提として環境影響評価をやり直してほしい。	首都圏での開催であることを考慮し、有料来場者数を1,000万人以上と想定しており、北側からの来場車両が多くなると予測しています。根拠のない割合で予測することはできません。
	生物多様性	公園整備事業の環境影響評価によると、調整池4は、水が涸れてしまうので、生き物は死滅してしまう。	調整池4は横浜市が、生物の生息・生育に寄与するものを整備することになっている。 本博覧会では、横浜市が整備したものを保全・活用することになります。
A (再質問)	その他	条例による説明会はもうないのか。 環境影響評価に関わらず、今後、国際園芸博覧会として、市民に対する説明会は行われるのか。横浜市の事業も含め、3事業を通して説明してほしい。	条例に基づく環境影響評価に関する説明会はありません。また、現時点で博覧会協会として予定している説明会はありません。 ご要望については、ご意見として承りました。
C (再質問)	対象事業の計画	駐車場・バスターミナルは、全てアスファルト舗装にするのか。開催後はどうなるのか。	駐車場・バスターミナルの舗装については、できるだけ透水性を確保することを想定しています。開催後は速やかに解体・撤去して、横浜市の土地区画整理事業に返還することになります。
B (再質問)	輸送計画	徒歩等で来場する人は、6パーセントと記載されているが、どこを起点に会場にアクセスするのか。周辺の地域とは、どのくらいの距離を想定しているのか。 歩道が非常に狭いので、混雑して安全性が損なわれることを心配している。	過去の博覧会の傾向などを踏まえて、周辺の地域から徒歩等で来る割合を推計しています。 周辺地域については、一般的に徒歩等で来場できる距離を想定しています。 徒歩による来場については、周辺の整備された歩道を想定していますが、安全に来場できるよう、引き続き、検討していきます。

表 2-5(3) 説明会（第4回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
F	その他	条例に基づく説明会はこれで終わりということだが、事業計画を見直したうえで説明会をやり直してほしい。 評価書の前にも説明会を開催してほしい。博覧会だけでなく、関連3事業が連携して説明会を開催してほしい。	横浜市の条例に基づいて手続きを進めており、説明会をやり直すことは考えていません。 今後は、縦覧期間中の意見書や、審査会でのご意見を踏まえ、事業計画に反映し、評価書としてとりまとめ、公告・縦覧することになります。
G	地域社会	開催時の交通量を予測する際は、道路拡幅や交差点改良などを考慮しているのか。 地点2の近くに事業所があるが、工事中の需要率が限りなく1.0に近い予測となっている。これは最大の値なのか。 出退勤時間をずらすと記載されているが、どういうことを想定しているのか。	開催時における道路の整備状況等を考慮して予測・評価を行っています。 工事中の需要率は、一般の交通量が最も多い時間帯に、工事用車両の台数を考慮して予測しています。 混雑を緩和するため、工事の従事者に時差を設けて出退勤を働きかけることを想定しています。
H	その他	博覧会協会が開催した共創キックオフミーティングでは、植物の出展料が無料になっていたのはなぜか。	キックオフということで、一例を示しているものであり、今後、詳細について検討を進めていきます。
B (再質問)	水循環	和泉川流域は、直前の天気によって流れや流量が変わるような環境である。杭を打つのが少ないから影響はないと言われても、納得いかない。 和泉川の周辺は、東京湾と相模湾の分水界であり、起伏を変えることによって影響が出ることを懸念している。	建築物はレンタル・リースとし、帯水層を遮断するような規模・深さの基礎を設置することは想定していません。 本博覧会の整備では、大規模な造成は行わず、現況の地形を活かすため、影響は少ないものと考えています。